第５章

RCA 指数によるアジア諸国の比較優位構造の把握

玉 村　千 治・桑 森　啓・内 田　陽 子

はじめに

第４章において，RCA 指数の比較優位の概念に沿った適切な利用法はどのようなものであるかを検討した。本章では，その検討結果から得られた適切な利用法にのっとり，RCA 指数によるアジア諸国の比較優位構造の変化を把握する。具体的には，アジア金融危機直後の５年間（1998年から2002年）を前期，リーマンショック直後の５年間（2009年から2013年）を後期として，２回の危機を経て各国産業の比較優位がどのように変化したかを把握する。同時に中国市場，先行 ASEAN 市場という特定市場での比較優位指数を利用して，各市場における各国産業の競争力がどう変化したかについても概観する。

第１節　各国の比較優位産業の抽出方法

ここでは，本章で用いられる分析の方法論等，基本的枠組みを記述する。

１．市場別 RCA 指数の利用

RCA 指数は，第４章第４節の表記法にならって輸出国（自国）r を固定した場合，輸出市場（輸出相手国）を $s_j(j=1,\cdots,m)$，w を世界，産業を i（$=1,\cdots,n$）で示すと，

$$RCA=\frac{X_i^{rs_j}/X_i^{ws_j}}{X^{rs_j}/X^{ws_j}}$$

と表わされる。ここで，X^{rs_j} は，r 国から市場 s_j（国，地域）への輸出総額，$X_i^{rs_j}$ は r 国から市場 s_j（国，地域）への産業 i の輸出額である。

実際に取り上げるアジアの輸出国（地域）r は，インドネシア，マレーシア，フィリピン，

シンガポール，タイ，ベトナム，日本，中国，韓国，香港，台湾，オーストラリア，ニュージーランド，および参考としてのインド[(1)]である。一方，輸出市場 s_j としては世界，中国および先行 ASEAN（インドネシア，マレーシア，フィリピン，シンガポールおよびタイを包含した地域）を対象とする。

また，産業は貿易統計 HS 分類の大分類である「部」と対応するものとし，21のカテゴリーからなる「部」のうち，第19部（武器類），第20部（雑品）および第21部（美術品等）を対象から外した。各「部」の簡易名称は本書のデータ編と同じである（序章参照）。

参照する統計データの対象年次は，アジア金融危機直後の５年間（1998年から2002年：前期），リーマンショック直後の５年間（2009年から2013年：後期）の延べ10年間で各年毎に計測された RCA 指数を利用する。

２．比較優位産業の抽出

まず，対象各国の対象年次の RCA 指数の上位５位（比較優位の高い）産業に着目する。これらのうち，前期（1998年から2002年）あるいは後期（2009年から2013年）で比較優位指数が上位５位に３回（つまり３年）以上位置する産業を抽出する。そのなかで，とくに世界市場において前期・後期ともに抽出された産業を２回の危機を乗り切った産業であるから当該国にとっての基幹の比較優位産業（＝競争力のある産業）と考え，前期に抽出されたが後期に姿を消した産業を後退産業（＝競争力を相対的に失った産業），前期には抽出されなかったが後期に現れた産業を浮上産業（＝競争力を相対的に増加させた産業）ととらえることにした。また，中国および先行 ASEAN 市場で前・後期ともに抽出された産業を各市場における当該国の重点産業と表現する。このことを特徴的に図示したのが表5.2である。（この表を導くまでの RCA 指数の取り扱い手順は，韓国を雛型にして本章の Appendix に付してある。）

表は，世界，中国および先行 ASEAN の各市場における各国の基幹の比較優位産業，重点産業，後退産業，浮上産業を次のような記号で示している。

表5.1　各国の比較優位水準の変化の表現方法（凡例）

（市場）	基幹	後退	浮上
世界	◎	▼	△

（市場）	重点	後退	浮上
中国／先行 ASEAN	○	▽	△

表5.2　各国の市場別比較優位産業

		HS「部」番号と名称																	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
	対象市場	動物性生産品	植物性生産品	油脂	調製食料品	鉱物性生産品	化学	プラスチック類	皮革・装身具	木材及びその製品	パルプ・紙製品	繊維及びその製品	履物・帽子類	セメント類	貴金属製品	卑金属製品	機械類	輸送機器	精密機器類
インドネシア	世界			◎		◎				◎	△	▼	◎						
	中国	▽		○		○				○	○		△						
	ASEAN			○	△	△				○	○		▽		▽				
マレーシア	世界			◎		◎		◎		◎							◎		
	中国			○	△	▽		△		▽				▽			○		
	ASEAN			○	○			△		○				○			▽		
フィリピン	世界		▼	◎	△				▼	△		▼					◎		
	中国		▽	○	△	▽										○	○		
	ASEAN	△		○	○									▽			○	○	
シンガポール	世界			▼		◎	◎	◎									◎		△
	中国				△	○	○	○									○		
	ASEAN			○		○	△	○			○						▽		
タイ	世界	▼	◎		◎			◎	▼						△		△		
	中国	▽	○		○		△	○		△	▽								
	ASEAN	▽	▽	○	○			○		△								△	
ベトナム	世界	◎	◎			▼			△			◎	◎						
	中国	○	○		▽	▽		△		△			△						
	ASEAN		○			▽						△	○	△					
日本	世界							▼						△		◎	◎	◎	◎
	中国						△					▽		○		○	▽	○	▽
	ASEAN							○						○		○		○	○
中国	世界								◎			◎	◎	◎			△		
	ASEAN			▽					○	△		○	○	○					
韓国	世界							◎	▼			▼				△	◎	◎	△
	中国						○	○	▽			▽	○				△		△
	ASEAN					△		○	▽			○	▽			△		△	
香港	世界				△			△			◎	◎			◎		▼		▼
	中国				△			○			○	○			○				▽
	ASEAN				○		△				○	▽			○				▽
台湾	世界							◎	▼			◎				◎	◎		
	中国						○	○				△		○		▽	▽		△
	ASEAN							○			△	○	▽			○	○		
オーストラリア	世界	◎	◎			◎									◎	◎			
	中国	○	▽	▽		○			△			○			△				
	ASEAN	○	△	○						△		▽			○	▽			
ニュージーランド	世界	◎	◎		△				◎	◎	▼								
	中国	○		▽	○				○	○		△							
	ASEAN	○		○	○					○	○								
インド（参考）	世界		◎						◎			◎			◎				
	中国	○		○								○	○			○			
	ASEAN	○	○	○		○												○	

（出所）筆者作成。

（注）１）記号の意味は，本文1.2および Appendix を参照のこと。

２）対象市場の ASEAN は先行 ASEAN（インドネシア，マレーシア，フィリピン，シンガポール，タイ）を指す。

第２節　各国の比較優位産業の変化の把握

まず表5.2を俯瞰すると，ASEAN 諸国および大洋州諸国の比較優位産業は一次産品および軽工業に属する産業に集中し，日本，韓国，台湾が金属・機械関係産業に，中国，香港は軽工業に比較優位産業をもっている状況で，大きな棲み分けができているようである。以下では，各国産業の比較優位の変化を観察し，どの産業を基幹産業とし，あるいはどの市場で比較優位としているかを読み取ってみる。（以下で示す品目名の後の（　）内の数字は HS 分類の部番号を示している。）

１．ASEAN 諸国

⑴　インドネシア

＜世界市場＞

基幹産業となっているのは，油脂⑶，鉱物性生産品⑸，木材及びその製品⑼，履物・帽子類⑿といった一次産品あるいは軽工業である。前期に比較優位をもっていた繊維及びその製品⑾は後退し，代わってパルプ・紙製品⑽が浮上した。

＜中国市場＞

この市場への重点産業は，基幹産業のうちの３産業，油脂⑶，鉱物性生産品⑸，木材及びその製品⑼とパルプ・紙製品⑽である。基幹産業である履物・帽子類⑿はこの市場では後期に浮上してきたが，一方で前期に競争力をもっていた動物性生産品⑴は後退した。

＜先行 ASEAN 市場＞

重点産業は基幹産業のうちの２産業，油脂⑶，木材及びその製品⑼とパルプ・紙製品⑽である。基幹産業のひとつである履物・帽子類⑿はこの市場では後退した。またかつて競争力をもっていた貴金属製品⒁も後退し，他方，調製食料品⑷，鉱物性生産品⑸の競争力が増加した。

⑵　マレーシア

＜世界市場＞

油脂⑶，鉱物性生産品⑸，プラスチック類⑺，木材及びその製品⑼，機械類⒃の５つが基幹の比較優位産業で変動がない。

＜中国市場＞

基幹の比較優位５産業のうち，中国市場での重点産業は油脂(3)と機械類⒃だけであり，鉱物性生産品(5)と木材及びその製品(9)は後退し，プラスチック類(7)はこの市場で新たに競争力をもってきた産業である。また，かつて競争力をもっていたセメント類⒀は競争力を失い，調製食料品(4)が浮上してきた。

＜先行 ASEAN 市場＞

５つの基幹比較優位産業のうち，この市場での重点産業は油脂(3)と木材及びその製品(9)の２産業である。加えて，調製食料品(4)とセメント類⒀も重点産業となっている。一方，以前競争力のあった基幹産業の機械類⒃は後退し，プラスチック類(7)が浮上してきた。

(3)　フィリピン

＜世界市場＞

油脂(3)，機械類⒃の２つだけが基幹の比較優位産業となっていて，比較優位産業の交代が比較的多い。かつて比較優位があった植物性生産品(2)，皮革・装身具(8)，繊維及びその製品⑾は後退し，代わって調整食料品(4)，木材及びその製品(9)が比較優位産業となって浮上してきた。

＜中国市場＞

この市場での重点産業は２つの基幹の比較優位産業と卑金属製品⒂である。以前競争力のあった植物性生産品(2)と鉱物性生産品(5)は後退し，調製食料品(4)が浮上してきた。

＜先行 ASEAN 市場＞

２つの基幹の比較優位産業に加え，調製食料品(4)と輸送機械⒄が重点産業になっており，動物性生産品(1)も浮上してきた。一方，セメント類⒀は後退した。

(4)　シンガポール

＜世界市場＞

基幹の比較優位産業は，鉱物性生産品(5)，化学(6)，プラスチック類(7)，機械類⒃の４産業となっている。かつて競争力のあった油脂(3)は後退し，精密機器類⒅が競争力をつけてきたが，中国／先行 ASEAN 市場での浮上はみられず，他市場（たとえば EU）で競争力を発揮していることが窺える。総じて，他の ASEAN 諸国に比べ，機械関係の産業により競争力がある。

＜中国市場＞

基幹の比較優位産業が中国市場でも重点産業となっている。加えて，調製食料品(4)の比較優

位性も浮上した。この市場では顕著な競争力の落ち込みを示した産業はない。

＜先行 ASEAN 市場＞

この市場で重点産業となるのは，基幹の比較優位産業のうちの 2 産業，鉱物性生産品(5)とプラスチック類(7)に油脂(3)とパルプ・紙製品(10)を加えた 4 産業である。残りの基幹の比較優位産業である化学(6)と機械類(16)は，前者は近年になって浮上してきたが，後者は後退した。

(5)　タイ

＜世界市場＞

植物性生産品(2)，調製食料品(4)，プラスチック類(7)の 3 産業が基幹の比較優位産業となっている。かつて比較優位のあった動物性生産品(1)と皮革・装身具(8)は後期には後退し，代わって貴金属製品(14)，機械類(16)が比較優位産業として浮上してきた。比較優位のある産業が，金属・機械産業へシフトしつつあることが窺える。

＜中国市場＞

基幹の比較優位産業すべてが中国市場でも重点産業となっている。また，以前競争力を有していた動物性生産品(1)とパルプ・紙製品(10)は後退したが，代わって化学(6)，木材及びその製品(9)の競争力が大きくなってきた。

＜先行 ASEAN 市場＞

この市場での重点産業は，基幹の比較優位産業の調製食料品(4)およびプラスチック類(7)と油脂(3)である。基幹産業の植物性生産品(2)はこの市場では後退した。また，以前競争力のあった動物性生産品(1)も後退した。他方で，木材及びその製品(9)と輸送機器(17)の競争力が増大してきた。

(6)　ベトナム

＜世界市場＞

動物性生産品(1)，植物性生産品(2)，繊維及びその製品(11)，履物・帽子類(12)といった一次産品加工・軽工業的産業が基幹の比較優位産業となっている。前期に比較優位のあった鉱物性生産品(5)は後退し，皮革・装身具(8)が浮上してきた。

＜中国市場＞

この市場では，基幹の比較優位産業のうち，動物性生産品(1)と植物性生産品(2)の一次産品関係 2 産業が重点産業となっている。前期に競争力をもっていた調製食料品(4)，鉱物性生産品(5)

は後退し，プラスチック類(7)，木材及びその製品(9)，履物・帽子類⑿が競争力をもつようになった。

＜先行 ASEAN 市場＞

重点産業は，植物性生産品(2)と履物・帽子類⑿の２産業である。鉱物性生産品(5)はこの市場でも後退し，繊維及びその製品⑾とセメント類⒀が浮上してきた。

２．日本

＜世界市場＞

卑金属製品⒂，機械類⒃，輸送機器⒄，および精密機器類⒅の金属・機械関係４産業が基幹の比較優位産業となっていて，先進工業国の特徴を表している。また，前期に比較優位のあったプラスチック類(7)は後退し，代わってセメント類⒀が浮上してきた。

＜中国市場＞

中国市場での重点産業は，基幹の比較優位産業である卑金属製品⒂と輸送機器⒄，およびセメント類⒀である。他方，基幹産業でありながら機械類⒃と精密機器類⒅は，この市場で後退した。同じように前期には競争力をもっていながら後退した産業は繊維及びその製品⑾である。こうしたなかで新たに浮上したのは化学(6)である。

＜先行 ASEAN 市場＞

この市場では基幹産業の卑金属製品⒂，輸送機器⒄，および精密機器類⒅とプラスチック類(7)，セメント類⒀が重点産業となっていて，後退する産業も新たに浮上した産業もない。特徴的なのは，基幹の比較優位産業である機械類⒃がこの市場で競争力産業となっていないことである。この産業が中国市場でも後退している点に鑑みると，他地域（たとえば EU）でより大きな競争力をもっていると考えられる。

３．中国

＜世界市場＞

皮革・装身具(8)，繊維及びその製品⑾，履物・帽子類⑿およびセメント類⒀の軽工業４産業が基幹の比較優位産業となっているが，近年，機械類⒃も比較優位産業として浮上してきた。

＜先行 ASEAN 市場＞

基幹の比較優位産業すべてがこの市場でも重点産業となっている。また，前期に競争力をもっていた油脂(3)は後退し，木材及びその製品(9)が競争力のある産業として浮上してきた。

４．アジア NIEs（除シンガポール）

(1) 韓国

＜世界市場＞

プラスチック類(7)，機械類⒃，輸送機器⒄が基幹の比較優位産業となっている。かつて比較優位産業であった軽工業的産業である皮革・装身具(8)と繊維及びその製品⑾は後退し，近年，卑金属製品⒂，精密機器類⒃が比較優位産業として浮上してきた。

＜中国市場＞

この市場で重点産業となってきたのは基幹産業のプラスチック類(7)をはじめ化学(6)，および履物・帽子類⒁であり，近年には機械類⒃と精密機器類⒅といった機械関係産業も競争力をもつようになった。その一方で，前期には競争力をもっていた皮革・装身具(8)や繊維及びその製品⑾などの軽工業は競争力を失ってきた。

＜先行 ASEAN 市場＞

基幹産業のプラスチック類(7)と世界市場および中国市場ではすでに競争力を失っている繊維及びその製品⑾が重点産業となっている。また，機械関係産業についても，中国市場で顕著な競争力を示さなかった卑金属製品⒂，輸送機器⒄が近年競争力をもってきた点など中国市場との棲み分けがみられる。

(2) 香港

＜世界市場＞

パルプ・紙製品⑽，繊維及びその製品⑾，貴金属製品⒁といった軽工業的産業が基幹の比較優位産業となっている。かつて比較優位を有していた機械類⒃と精密機器類⒅は後退し，代わって調整食料品(4)とプラスチック類(7)が比較優位産業となってきた。

＜中国市場＞

重点産業は基幹の３産業とプラスチック類(7)であり，総じて中国市場での状況は世界市場での状況とほぼ同じといえよう。若干の相違は機械類⒃の後退がみられない点である。

＜先行 ASEAN 市場＞

重点産業は，調整食料品(4)と基幹産業のパルプ・紙製品⑽と貴金属製品⒁であるが，基幹産業のひとつである繊維及びその製品⑾はこの市場においては競争力を失ってきた。また，精密機器類⒅は他の市場の傾向と同じように後退してきている。一方で，化学(6)がこの市場のみにおいて競争力のある産業として浮上してきた。

⑶　台湾

＜世界市場＞

プラスチック類(7)，繊維及びその製品⑾，卑金属製品⒂，機械類⒃が基幹の比較優位産業となっている。かつて比較優位のあった皮革・装身具(8)は後退したが，比較優位の上位産業に大きな変化はない。

＜中国市場＞

この市場での重点産業は化学(6)，プラスチック(7)，およびセメント類⒀であり，基幹の比較優位産業と一致するのはプラスチック(7)のみである。他の基幹産業については，卑金属製品⒂と機械類⒃はこの市場では近年むしろ後退していて，逆に繊維及びその製品⑾は競争力のある産業に浮上してきたところである。また，この市場のみの現象として精密機器類⒅が近年競争力のある産業として浮上してきた。

＜先行 ASEAN 産業＞

この市場では中国市場とは逆に，基幹の比較優位産業すべてが重点産業となっている。他の変化は小さく，履物・帽子類⒁の競争力後退と代わってパルプ・紙製品⑽の競争力上昇がみられるだけである。

５．大洋州

⑴　オーストラリア

＜世界市場＞

動物性生産品(1)，植物性生産品(2)，鉱物性生産品(5)，貴金属製品⒁，卑金属製品⒂といったおおむね一次産品関連産業が基幹の比較優位産業となっていて変化がない。

＜中国市場＞

重点産業は動物性生産品(1)と鉱物性生産品(5)の基幹２産業と繊維及びその製品⑾であり，他の基幹３産業をみると，植物性生産品(2)は後退，貴金属製品⒁は近年浮上して競争力をもつよ

うになり，卑金属製品⒂についてはこの市場では比較優位をもつ産業となっていない。その他の産業では，前期には競争力をもっていた油脂(3)は後退し，皮革・装身具(6)，貴金属製品⒁が競争力をもってきた。

＜先行 ASEAN 市場＞

この市場での重点産業は，動物性生産品(1)および貴金属製品⒁の基幹 2 産業と油脂(3)である。基幹の比較優位産業のうち植物性生産品(2)はこの市場でも競争力を上昇させてきたが，鉱物性生産品(5)はこの市場では競争力がなく，卑金属製品⒂は前期には競争力があったが後退してきた。また，新たに木材及びその製品(9)が競争力をつけてきた。

(2) ニュージーランド

＜世界市場＞

動物性生産品(1)，植物性生産品(2)，皮革・装身具(8)，木材及びその製品(9)の一次産品関連産業の 4 つが基幹の比較優位産業となっている。前期には比較優位のあったパルプ・紙製品⒑は後退し，調製食料品(4)が比較優位産業として浮上した。傾向としてはオーストラリアと類似しているが，金属・機械関連産業に比較優位産業が見出せない点が異なっている。

＜中国市場＞

この市場での重点産業は 4 つの基幹産業のうち植物性生産品(2)を除く 3 産業と調製食料品(4)である。近年，油脂(3)が競争力を後退させ，繊維及びその製品⒒の競争力が増加している点を除き大きな変化はない。

＜先行 ASEAN 市場＞

重点産業は，動物性生産品(1)と木材及びその製品(9)の基幹 2 産業と油脂(3)，調製食料品(4)，およびパルプ・紙製品⒑の 5 産業であり変化はない。

6．インド（参考）

利用可能な統計が後期のみであるので，他国のような観察はできず，後期の観察から近年の状況を俯瞰すると以下のようになる。

植物性生産品(2)，皮革・装身具(8)，繊維及びその製品⒒，貴金属製品⒁の一次産品関連・軽工業的な産業に基幹的比較優位がみられる。しかし，これらの産業と中国市場や先行 ASEAN 市場で競争力をもつ産業とは大きく異なっている。さらに，両市場それぞれで競争力をもつ産業も動物性生産品(1)と油脂(3)以外 6 産業で異なっている。

第３節　各国比較優位産業の各市場での競合関係

各国には特定の市場で比較優位とする産業がある。ここでは，先の表5.2を産業ごとにみて，中国市場，先行 ASEAN 市場において，当該産業を比較優位とする国の変化を読み取り，近年（2009年以降）の競合関係を把握する。

そのために，まず，中国市場と ASEAN 市場を対比できるように，表5.2から表5.3（中国市場），表5.4（先行 ASEAN 市場）を分離した。また，類似する産業群を一次産品関連産業（HS 分類で第１，２，３，５部），軽工業関連産業（同４，９，10，13，８，11，12，14），化学関連産業（同６，７）および金属・機械関連産業（同15，16，17，18）として近接して並べた。

１．一次産品関連産業

一次産品関連産業の特徴として，まず，ASEAN 諸国に着目すれば，中国市場ではかつて３カ国以上がこの分野を比較優位産業として競合していたが，近年では油脂(3)を除き各産業で競合する国が減ったこと，また，先行 ASEAN 市場では以前から競合分野はほぼ油脂(3)と鉱物性生産品(5)に限られていたことが挙げられる。一方，ASEAN 諸国以外では，インドおよび大洋州諸国がおおむねこの分野に比較優位をもっているが，とくに先行 ASEAN 市場にその傾向が強い。

２．軽工業関連産業

この分野は範囲が広いので，さらに調製食料品(4)，木材及び建設資材関係（９，10，13），および衣料・装身具関係（８，11，12，14）に細分して観察する。

(1)　調製食料品

調製食料品(4)では，ASEAN 諸国は先行 ASEAN 市場に比較優位をもつ国が多かったが，中国市場でも比較優位産業として浮上し，競合関係をもつようになってきた。加えて，香港とニュージーランドも競合する。近年どちらの市場でも多くの国が競合するという背景には，各市場の需要が増大したことと同時に，品目間の棲み分けがあるのではないかと推測される。

(2)　木材および建設資材関係

木材関連（９，10）では中国市場より先行 ASEAN 市場で比較優位とする国が多く，５つ以上の国の競合となっている。

表5.3　各国の中国市場での比較優位産業

	1 動物性生産品	2 植物性生産品	3 油脂	5 鉱物性生産品	4 調製食料品	9 木材及びその製品	10 パルプ・紙製品	13 セメント類	8 皮革・装身具	11 繊維及びその製品	12 履物・帽子類	14 貴金属製品	6 化学	7 プラスチック類	15 卑金属製品	16 機械類	17 輸送機器	18 精密機器類
インドネシア	▼		○	○		○	○				△							
マレーシア			○	▼	△	▼		▼						△		○		
フィリピン		▼	○	▼	△										○	○		
シンガポール				○	△								○	○		○		
タイ	▼	○			○	△	▼						△	○				
ベトナム	○	○		▼	▼	△					△			△				
日本								○		▼			△		○	▼	○	▼
韓国									▼	▼	○		○	○		△		△
香港					△		○			○		○		○				▼
台湾								○		△			○	○	▼	▼		△
オーストラリア	○	▼	▼	○					△	○		△						
ニュージーランド	○		▼		○	○			○	△								
インド（参考）	○		○							○	○				○			

（出所）筆者作成。
（注）記号の意味は，本文1.2および Appendix を参照のこと。

表5.4　各国の先行 ASEAN 市場での比較優位産業

	1 動物性生産品	2 植物性生産品	3 油脂	5 鉱物性生産品	4 調製食料品	9 木材及びその製品	10 パルプ・紙製品	13 セメント類	8 皮革・装身具	11 繊維及びその製品	12 履物・帽子類	14 貴金属製品	6 化学	7 プラスチック類	15 卑金属製品	16 機械類	17 輸送機器	18 精密機器類
インドネシア			○	△	△	○	○				▼	▼						
マレーシア			○		○	○		○						△		▼		
フィリピン	△		○		○			▼								○	○	
シンガポール			○	○			○						△	○		▼		
タイ	▼	▼	○		○	△								○			△	
ベトナム		○		▼				△		△	○							
日本								○						○	○		○	○
中国			▼			△		○	○	○	○							
韓国				△					▼	○	▼			○	△		△	
香港					○		○			▼		○	△					▼
台湾							△			○	▼			○	○	○		
オーストラリア	○	△	○			△				▼		○			▼			
ニュージーランド	○		○		○	○	○											
インド（参考）	○	○	○	○													○	

（出所）筆者作成。
（注）記号の意味は，本文1.2および Appendix を参照のこと。

セメント類⒀では，中国市場でこの産業を比較優位とする ASEAN 諸国は存在しないが，先行 ASEAN 市場では中国が比較優位産業としている。特徴的なのは，日本が両市場でこの産業を比較優位としていることである。

⑶　衣料・装身具関係

この分野の特徴としては，まず，ASEAN 諸国が比較優位とする産業は両市場においてほとんどない点が挙げられる。インドネシアとベトナムがわずかながら比較優位としている部分もあるが，この分野での ASEAN 諸国の競争力はすでになくなったと推測できよう（参考：表5.1の対世界市場での状況）。

つぎに，中国の先行 ASEAN 市場での状況をみると，貴金属製品⒁以外の産業を比較優位とし，繊維及びその製品⑾での韓国，台湾との競合があるものの，おおむね独占的である状況が窺える。

また，変化や競合がとくに多くみえる繊維及びその製品⑾に着目すると，中国市場では日本，韓国ともに比較優位を失ってきたが，インド，大洋州諸国，香港，台湾がそれぞれの国でこの産業を比較優位として競合している状況にある。一方で，韓国は台湾とともに先行 ASEAN 市場では近年に至ってもまだこの産業を比較優位とし，中国と競合関係にあるが，中国市場で競争するインド，大洋州諸国，および香港はこの市場では競合に参加するほどの比較優位性はないようである。

３．化学関連産業

この分野の特徴は，両市場において，観察期間に比較優位を失った国はなく，逆に比較優位産業として競争に参入した国が出てきた点である。両市場における需要の増大があったことが推測される。

４．金属・機械関連産業

まず，中国市場の機械類⒃に着目すると，ASEAN 諸国の３カ国がこの産業を比較優位産業としている。日本と台湾もかつては比較優位としていたが，近年比較優位を後退させ，代わって韓国が浮上してきた。ASEAN と中国，韓国と中国のサプライチェーンが一段と発展したことが窺われる。一方，先行 ASEAN 市場では日本は近年，卑金属製品⒂で韓国，台湾と，また輸送機器⒄では韓国と競合するようになったが，精密機器類⒅ではまだ独占的競争になっている状況である。また，先にみたように世界市場では日本は機械類を基幹産業（比較優位のある産業）としているが，この市場では優位性はみられない。

まとめにかえて

本章では，東アジア諸国の貿易構造を顕示的比較優位指数（RCA 指数）のみによって俯瞰した。第 4 章でも示されたように，RCA 指数による基本的な分析は，特定国の産業間の貿易（輸出）の比較優位をみるものであるので，国間の産業の比較優位は単純には比較が難しい。たとえば，実際の貿易（輸出）の規模などは大国，小国によって大きく異なるからである。また，貿易統計分類で産業をどう詳細に定義するかによっても，各国の産業が大分類では競合的にみえても，詳細分類では補完的であることが判明することも多い。このような背景を理解しながらも，本章では本書の目的にしたがって，RCA 指数による標準的な分析事例として18産業について各国産業の比較優位状況を整理した。各国各産業間の輸出競争にかかわる分析は，貿易の規模や貿易指数の組み合わせることによってより精緻な結果が得られるであろう。

〔注〕

(1) インドに関する利用可能データは，対象期間のうち後期（2009年から2013年）のみであるため（参考）とした。

Appendix：比較優位産業の抽出と表5.2の作成方法

本章でいう比較優位産業の抽出方法について韓国の対世界市場における RCA 指数を例に取り上げ，表5.2を得るまでの作業ステップを記述する。

＜ステップ 1 ：RCA 指数の計測＞

まず，対象18産業の RCA 指数について各年で計測されたものに着目する（本書のデータ編に掲げられている RCA 指標の数値である）。

＜ステップ 2 ：RCA 指数による順位づけ＞

上で得られた RCA 指数を各年で降順に順位付けする。これにより，年毎に比較優位のある産業の抽出が可能となる。

＜ステップ 3 ＞

前期（1998～2002年）の 5 年間で，上位 5 位までに 3 回入った産業を抽出する。この例では，11（繊維及びその製品），17（輸送機器）および 7 （プラスチック類）が 5 回， 8 （皮革・装身具）と16（機械類）が 4 回で抽出される。3 回の産業はない。

後期（2009年-2013年）についても同様の処理をして，17（輸送機器），18（精密機器類）， 7

ステップ１　韓国の RCA 指数（対世界市場）

産業部門＼年	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
1	0.428	0.448	0.340	0.302	0.253	0.214	0.204	0.174	0.151	0.162	0.168	0.176	0.180	0.200	0.222	0.173
2	0.110	0.133	0.130	0.145	0.117	0.103	0.089	0.090	0.076	0.063	0.057	0.066	0.065	0.060	0.063	0.058
3	0.047	0.019	0.029	0.031	0.034	0.027	0.020	0.016	0.019	0.020	0.023	0.016	0.026	0.033	0.035	0.028
4	0.267	0.255	0.273	0.298	0.291	0.277	0.253	0.249	0.238	0.219	0.221	0.218	0.234	0.243	0.269	0.222
5	0.486	0.520	0.498	0.502	0.402	0.326	0.345	0.378	0.412	0.433	0.479	0.415	0.409	0.488	0.508	0.646
6	0.503	0.489	0.565	0.537	0.512	0.515	0.557	0.596	0.652	0.662	0.658	0.576	0.624	0.705	0.741	0.689
7	1.354	1.332	1.361	1.430	1.402	1.403	1.401	1.487	1.418	1.421	1.521	1.506	1.475	1.492	1.613	1.613
8	1.540	1.564	1.429	1.279	1.022	0.805	0.646	0.537	0.470	0.432	0.417	0.381	0.343	0.320	0.426	0.434
9	0.078	0.067	0.061	0.054	0.040	0.038	0.035	0.026	0.017	0.017	0.018	0.021	0.015	0.018	0.026	0.022
10	0.543	0.548	0.520	0.529	0.479	0.466	0.451	0.433	0.410	0.390	0.407	0.389	0.396	0.395	0.427	0.409
11	1.900	1.898	1.823	1.758	1.627	1.390	1.151	1.020	0.915	0.856	0.827	0.741	0.745	0.737	0.784	0.706
12	0.727	0.700	0.675	0.662	0.520	0.422	0.355	0.302	0.265	0.235	0.230	0.180	0.163	0.159	0.170	0.168
13	0.393	0.429	0.486	0.524	0.470	0.449	0.442	0.437	0.414	0.382	0.350	0.316	0.319	0.321	0.394	0.359
14	2.920	1.229	0.663	0.630	0.531	0.932	0.847	0.212	0.308	0.255	0.308	0.507	0.378	0.379	0.377	0.194
15	1.274	1.174	1.084	1.114	1.059	1.097	1.056	1.128	1.131	1.068	1.169	1.255	1.170	1.260	1.356	1.187
16	1.171	1.350	1.490	1.430	1.580	1.631	1.615	1.546	1.477	1.441	1.396	1.349	1.345	1.321	1.311	1.468
17	1.355	1.263	1.323	1.526	1.509	1.579	1.729	1.877	1.968	2.022	2.273	2.473	2.484	2.592	2.376	1.710
18	0.692	0.843	0.421	0.429	0.394	0.516	0.696	1.261	1.726	2.084	2.271	2.396	2.454	2.085	2.050	1.796

（出所）筆者作成。

ステップ２　韓国産業の比較優位順位（降順）　⇒　ステップ３　前期，後期の上位５位に着目

（表中の数字は産業部門）

順位＼年	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
＜１＞	14	11	11	11	11	16	17	17	17	18	17	17	17	17	17	18
＜２＞	11	8	16	17	16	17	16	16	18	17	18	18	18	18	18	17
＜３＞	8	16	8	7	17	7	7	7	16	16	7	7	7	7	7	7
＜４＞	17	7	7	16	7	11	11	18	7	7	16	16	16	16	15	16
＜５＞	7	17	17	8	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	16	15
＜６＞	15	14	15	15	8	14	14	11	11	11	11	11	11	11	11	11
＜７＞	16	15	12	12	14	8	18	6	6	6	6	6	6	6	6	6
＜８＞	12	18	14	14	12	18	8	8	8	5	5	14	5	5	5	5
＜９＞	18	12	6	6	6	6	6	13	13	8	8	5	10	10	10	8
＜10＞	10	10	10	10	10	10	10	10	5	10	10	10	14	14	8	10
＜11＞	6	5	5	13	13	13	13	5	10	13	13	8	8	13	13	13
＜12＞	5	6	13	5	5	12	12	12	14	14	14	13	13	8	14	4
＜13＞	1	1	18	18	18	5	5	4	12	12	12	4	4	4	4	14
＜14＞	13	13	1	1	4	4	4	14	4	4	4	12	1	1	1	1
＜15＞	4	4	4	4	1	1	1	1	1	1	1	1	12	12	12	12
＜16＞	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
＜17＞	9	9	9	9	9	9	9	9	3	3	3	9	3	3	3	3
＜18＞	3	3	3	3	3	3	3	3	9	9	9	3	9	9	9	9

（出所）筆者作成。

（プラスチック類），16（機械類）および15（卑金属製品）が抽出される。

この結果，前期，後期の両期間で抽出された産業の17（輸送機器），7（プラスチック類），および16（機械類）を韓国の基幹の比較優位産業とする。また，前期では抽出されたが後期では抽出されなかった11（繊維及びその製品）と8（皮革・装身具）の2つの産業を後退産業とし，さらにその逆である前期に抽出されず後期に抽出された18（精密機器類）と15（卑金属製品）の2産業を浮上産業とする。

一方，中国および先行ASEAN市場においても同様の手順で比較優位産業を抽出するが，前・後期ともに抽出された産業を世界市場の基幹産業と区別し，各市場における当該国の重点産業と表現する。表5.1において本文でも示した次の記号によって分類する。

表5.5　各国の比較優位水準の変化の表現方法（凡例）

（市場）	基幹	後退	浮上
世界	◎	▼	△

（市場）	重点	後退	浮上
中国／先行ASEAN	○	▽	△

本文で利用される表5.3，表5.4も同じ分類の仕方である。